

経済学部カリキュラムポリシー<2026年度以降入学者>

| | 大学共通 | 経済学部 経済数理学科 | 経済学部 現代経済学科 |
|-----|---|--|--|
| CP | 成蹊大学は、「学位授与の方針」を踏まえ、次のような方針で教育課程を編成・実施します。 | | |
| CP1 | (CP1) (各学科、各専攻の)専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。 | (CP1) 経済数理学科の専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。 (CP1-1) ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学により基盤科目を構成し、初級から上級まで体系的に学修できるように配置する。 | (CP1) 現代経済学科の専門分野を系統的・体系的に学修できるように、各科目を適切に配置する。 (CP1-1) 経済学を理解する基礎的能力を養う基盤科目を配置する。 (CP1-2) サステナビリティの観点から現代の社会問題を深く考察・理解するための実践型の科目を配置する。 (CP1-3) グローバル経済および地域コミュニティ双方の現状を正しく理解し、かつ将来的な在り方を深く検討・考察するための科目を配置する。 |
| CP2 | (CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。 | (CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。 (CP2-1) 広い「成蹊教養カリキュラム」に加えて、制度、歴史を集中的に学修するための「総合科目」を設ける。 | (CP2) 広い教養と汎用性の高い技能を修得するための科目群「成蹊教養カリキュラム」を設ける。 (CP2-1) 広い「成蹊教養カリキュラム」に加えて、制度、歴史を集中的に学修するための「総合科目」を設ける。 |
| CP3 | (CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。 | (CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。 (CP3-1) 自己設計科目を設定し関心のある分野を副専攻とすることができるようにする。 | (CP3) 視野を広げ、多面的な思考を促進するとともに、異分野の学生との交流、多様な人々との協働を図るために、学部学科の枠を超えて幅広く学ぶことのできる仕組みを設ける。 (CP3-1) 自己設計科目を設定し関心のある分野を副専攻とすることができるようにする。 |
| CP4 | (CP4) 思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、(各学科の教育課程の適切な年次に)少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文(またはこれに代わるもの)の作成を必修とする。 | (CP4) 思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、経済数理学科の教育課程の全学年に、少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文(またはこれに代わるもの)の作成を必修とする。 (CP4-1) 1年次から4年次まで少人数のゼミナールを配置し、このうち1年次前期の「基礎ゼミナール」及び3、4年次の「上級ゼミナールⅠ」「上級ゼミナールⅡ」「卒業研究」を必修とする。 (CP4-2) 経済学、統計学等の知識をより確かなものとし、かつ、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、2年次から履修可能な選択のゼミナール科目を設ける。 (CP4-3) 「卒業研究」においては卒業論文またはこれに代わる成果物の提出を必須とする。 | (CP4) 思考力、表現力、課題解決力を集中的に錬成するために、現代経済学科の教育課程の全学年に、少人数の演習科目を置き、さらに卒業論文(またはこれに代わるもの)の作成を必修とする。 (CP4-1) 1年次から4年次まで少人数のゼミナールを配置し、このうち1年次前期の「基礎ゼミナール」及び3、4年次の「上級ゼミナール」「上級ゼミナールⅡ」「卒業研究」を必修とする。 (CP4-2) 表現力を集中的に錬成するために2年次に「プレゼンテーション演習」を設ける。 (CP4-3) 「卒業研究」においては卒業論文またはこれに代わる成果物の提出を必須とする。 |
| CP5 | (CP5) 自発性、積極性の達成のため、留学等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。 | (CP5) 自発性、積極性の向上のため、留学等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。 | (CP5) 自発性、積極性の向上のため、留学等の単位認定の仕組み、及び上級者向けの選抜型の科目を設ける。 (CP5-1) 高い英語力を備え国際的な活動に関心のある学生のために「グローバル教育プログラム」を設ける。 |